

べにたま栽培のポイント

「とちおとめ」と何が違う？

低温でしっかり育ちます(P9,10)

生育旺盛で草勢が強く、果房も長くなるため定植後や暖候期の高温管理（25℃以上）は避けてください。

低温伸張性が高いため、冬季の暖房温度は6℃でOKです。さらに電照も必要ありません。

栽培管理にひと手間を！（P6～9）

ランナーや腋芽の発生が多いため、摘除などの定期的な管理作業を行ってください。

肥料、水ともに要求量が多いため、肥料切れや乾燥害とならないようにしてください。

葉が下垂しやすいため、薬剤防除の際には葉裏にかかるよう丁寧に散布してください。



多収かつ良食味を実現(P2～4)

「とちおとめ」よりも収穫が2週間程度早くなるため、より長い期間収穫可能です。さらに、中休みも起きにくいいため、収量増が見込めます。

また、果形の乱れや小粒果が少ないことから可販果率が高いことも特徴です。

収穫期間を通して糖度が高く、暖候期以降も食味が良いため、果実品質が良いです。

果房が長くなります(P9～10)

果房が長くなりやすいことから、土耕栽培では畝下に果実がついてしまうことがあり、作業時に果実を傷める可能性があります。

定植位置を内側にする、畝高を高くするなど、着果位置を高くする工夫を行ってください。

また、高温管理によって果房が長くなるため、暑熱対策を積極的に行ってください。